

人と環境に優しい道づくり 広島経済大学教授 上田みどりさん



うえだ みどり 1946年生まれ。89年広島大学大学院文学研究科英語学英文学専攻博士課程修了。96年米国ハーバード大学客員研究員。99年より現職

交通の重要な役割を果たす道路は早急に整備すべきですが、私が特に期待したいのは、既存の交通網や道路を活かしながら、利便性を高める工夫です。

例えば、山陽

自動車道は、一般道に降りる場所が少ないため、生活に身近とは言い難い面

があります。インターチェンジの数が増えれば、利用頻度も高くなるはずですが、

環境への配慮という点では、マイカーと公共交通機関を組み合わせる移動する「パークア

ンドライド」は、二酸化炭素排出量の軽減につながります。ただ、駅周辺の駐車場が不足しているため、海外に比べて普及していないのが現状です。また、複数の人が乗る自動車を

既存の道路に工夫 利便性高めよう

優先するような施策も必要です。すね。

道が人にも優しい存在であるためには、段差をなくし、傾斜を緩やかにするバリアフリー設計は基本と言えます。その

意味で、広島市の城北地下道のエレベーター設置、安全性と大気汚染の解消を両立した呉市の休山トンネルにおける歩車道分離壁の整備、国道2号、西広島バイパスでの騒音低減と、

各地でのさまざまな取り組みについては、大いに評価できます。今後はこうした「優しさ」に加えて、交通標識の整備と

充実など「分かりやすさ」の追求もテーマになります。県外や海外から、多くの人たちに訪れてもらうための配慮も大切でしょう。

誰もが便利に安全に使えるユニバーサルデザインを目指すうえで、住民が積極的に参加でき、声を反映させるシステムづくりが不可欠です。「道の相談室」などをもっとPRし、活用していくべきでしょう。情報発信力を高めながら、行政と住民が一緒になって取り組んでいく。理想の道づくりは、理想の地域づくりにもつながります。

●津和野町津和野地区「殿町通り」の整備（島根県）



整備前

平成12年、住民参加による「殿町通り」の整備に着手。平成17年3月にくらしのみちゾーンのスーパーモデル地区に指定されました。歩行者・自転車優先の快適な道路空間の形成に取り組んでいます。



整備後

車道の舗装に工夫したり、歩行者や車いすが通りやすいよう歩道を拡幅するなど、誰もが安全・快適に通行できる道づくりを実現しました。